

人のために、自分のために 守るべきたいせつなこと

すべての人が、生涯で一度も事故にあわないこと。

その実現には、みんなが安全を理解し合い、身につけることが大切だとHondaは考えています。
だからこそ、誰もが理解できる学習方法が大切。「あやとりい」には、そんな思いが詰まっています。



身近な人と学ぶ交通安全

子は親の背中を見て育つ、という言葉があります。子どもにとって、身近な人の正しい姿はお手本であり、その姿から正しい行動を学ぶことができます。交通安全も同じです。子どもが交通安全を学ぶには、身近で交通安全を教えてくれる人の存在が不可欠です。一九九三年に鈴鹿市とホンダが設立した「鈴鹿モビリティ研究会」は、鈴鹿市のよりよい交通環境の推進と交通安全教育プログラムの開発・教育などを目的に活動を開始しました。そして、子どもたちを事故から守りたいという思いから、子どもにとって身近な存在である保護者や学校の先生、地域の方々と一緒に、交通安全を知り・気づき・学べる交通安全教育プログラム「あやとりい」を開発しました。

学ぶ年齢層に対応した 交通安全プログラム

「あんぜんを・やさしく・ときあかし・りかいして・いただく」という言葉から、その名は付けられました。そして、現在では四つのプログラムが展開されています。「歩道を歩く」という当たり前ともいえる交通ルールを学ぶことから始まる幼児対象の「あやとりい ひよこ編」。日常生活における危険なポイントを学ぶ小学校三〜四年生対象の「あやとりい」。自転車の乗り方を学ぶ子ども対象の「あやとりい 子ども自転車トレーニングマニュアル」。さらに、高齢者に向けたプログラム「あやとりい 長寿編」まで。いずれも教え



「あやとりい」シリーズは対象者別に4プログラム!

対象：4～5歳児

「あやとりい ひよこ編」

親から子にマン・ツー・マンで指導するプログラム。イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学べます。



対象：幼児～小学校高学年

「あやとりい 子ども自転車トレーニングマニュアル」 (指導者用)

実際に自転車に乗って楽しく安全を身につける体験型プログラム。「走る・止まる・曲がる」の基本動作を身につけ、交通安全に対する意識を育てます。



対象：小学3～4年生

「あやとりい」

小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養います。



対象：高齢者の方

「あやとりい 長寿編」 (指導者用)

高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。座学と実技でよくある事故事例に合わせた内容を中心に、自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促します。



くり返し学べる環境をつくる

込むのではなく、体験を通じて、交通ルールやマナーの基本が身につけられるようになっていくのが特長です。親から子に始まり、学校や地域の方々が集まって学べるプログラムとして、全国で活用されています。

交通ルールは、日常生活の中でとても身近なものであり、生活から切り離すことはできません。だからこそ、行動範囲が広がる幼少期から学齢期の子どもたち、増加している高齢者に向けた交通安全教育は大切です。しかし、一回の体験や学習で交通安全を身につけることは難しいものです。そのため、自分で考え・気づき・理解できる教材の開発や、仲間と楽しく学べる集団学習を中心とした、くり返し学べるプログラムへの改編に日々取り組んでいます。また、身近で交通安全を伝えてくれる地域の方を対象とした指導者の育成、地域に根ざした交通安全の基礎づくりも「あやとりい」の大切な役割となっています。

生涯教育としての交通安全 「あやとりい」のこれから

親と子の交通安全教育から始まり、高齢者向けのプログラムまで、時代や社会の変化に合わせて「あやとりい」は進化してきました。それは「交通安全」が、単に交通ルールを学ぶことから、「自分を知り、安全を学ぶ生涯教育」へと変化したためと言えます。子どもに交通ルールを教えることを通じて、親は危険に気づき、子どもを守る。高齢者には、止まる・

見る交通ルールを再び学んでいただくことで、忘れていた危険に気づき、身を守っていただく。これからも「あやとりい」をはじめとして、交通安全を優しくわかりやすく身につけていただくための取り組みをさらに広げていきたいと考えています。

